

こんなときどうしたら…？



こんなとき どうしたら…？



Dr. からのアドバイス



岐阜市民病院
歯科兼歯科・口腔外科部長
兵東 巖氏
(ひょうどう いわお)

昭和60年 愛知学院大学歯学部歯学科卒。岐阜大学医学部口腔外科学教室に入室。口腔外科外来医長、病棟医長を経て岐阜市民病院歯科兼歯科口腔外科部長、岐阜大学医学部非常勤講師。専門は口腔腫瘍、舌痛症(社)日本口腔外科学会専門医・指導医
Tel:058-251-1101(3300) Fax:058-252-1335

お口の中の話

虫歯や歯槽膿漏は、だれでも起こりうる意外と身近な病気です。特別苦しいわけではないので放置されがちですが、大切な自分の歯を一生使い続けたいものです。

「歯科口腔外科」と「歯科」の違いは何ですか？

Q 病院などの診療科標榜で、最近「歯科口腔外科」を目にするようになりました。何か違いはあるのでしょうか？また受診する際、なにかアドバイスありますか？

A 歯科も歯科・口腔外科も歯科医師が診療します。内科にも消化器内科、循環器内科等があるのと同じです。歯科・口腔外科を標榜している場合、口の中のできものや、顎のけがなどに對し、より専門的な知識を持って対応できることを意味します。特に病院内の「歯科・口腔外科」は難易度の高い疾患を優先的に治療の対象とするため、虫歯や入れ歯の治療は、待ち時間を考慮すると、歯科医院（かかりつけ歯科）での治療をお勧めします。また、口腔外科に受診した方がいいかどうかを迷った場合、歯科医院（かかりつけ歯科）を受診下さい。虫歯や入れ歯が原因となっている場合があります。その場で解決するものも結構あります。しかし、解決できない場合はかかりつけ歯科医に紹介状を書いていただき受診下さい。治

療の経過等が口腔外科で行う治療の大切な情報源となります。

Q 若いときから歯は丈夫で歯医者さんには行ったことがないですが、最近冷たいものや熱いものまでがしみるようになりました。年齢的なものですかね？

A 冷たいものがしみる場合は虫歯の可能性が高いです。さらに熱いものまでがしみる場合は歯槽膿漏（歯周病）の可能性が高いです。虫歯を治療された方は、その際歯槽膿漏の原因の歯石が発見され、早期に治療を受ける機会がありますが、若いときから歯が丈夫で歯科医院にあまり通院したことがなかった方は、特に進行した歯槽膿漏になっている方が多いようです。

歯槽膿漏は戦国時代で例えるなら「兵糧責め」のようなもので、月日をかけてジワジワと進行し、気が付いたときにはどうにもならず降参（抜歯）となる場合が多いのです。さらに個々に同じ環境の口腔内ですから1本の抜歯で済むのはむしろ稀で、総崩れ（全歯抜歯）となる場合もありますので注意が必要です。

年齢によって進行した歯槽膿漏が、症状を示す時期にたまたま重なっただけで、高齢者でも歯槽膿漏の治療をされている方は、歯がしみるといったことはありません。

Q 歯がなくなってしまったら、顎付きの義歯（床義歯）を入れれば良いと思いますが、寝る時は外さないといかんようだし、食事の後も外して洗わなきゃいかんみたいだし；でも、最近顎に人工の歯を植えるものがあると聞きました。が？

A インプラントの事ですね。以前のインプラントは、なかなか良い結果が得られず、入れても除去する場合は結構ありました。しかし、最近は製品や植立手技も確立されてきており安全に行えるようになってきました。インプラントは保険適応外（自費）治療であるため、高額な治療となります。地域によって様々ですが、

岐阜では1本だいたい3万円前後といわれています。インプラントを入れると食後や寝る時、顎付きの義歯（床義歯）のように外す必要はありませんし、肉やパン、漬物などの食べづらかった物も、もともとあった自分の歯のような感じで咬むことができると思われます。

Q 金銭的な問題がクリアできれば、すぐにインプラント入れようかな？

A ちよつと待つて下さい。何故インプラントを入れなければいけない状態になったかを考えてください。虫歯や歯槽膿漏で歯がなくなったとしたら、それまでの歯ブラシはあまり上手に出来ていなかったと言うことですね。インプラントを入れた後はしっかりと歯ブラシができないとその周囲に炎症が起き、インプラント除去なんてこともありますので、インプラント治療前に担当の先生と十分に相談されることをお勧めします。